

緊急で支援を開始！

人的派遣を！ 水と食料を！

4月14日未明の熊本地域での大地震の被害にあった熊本民医連への支援を16日から実施しています。医師、看護師、事務の支援を行うとともに、非常食や飲料水の支援を行っています。16日（土）14時から3泊4日の予定で、県連からの要請を受け、事務4名、看護2名、18日（月）9時30分からは医師1名、看護師2名が支援に向かいました。16日（土）には車3台で約2.5トンほどの水を、17日（日）には米や野菜、水も運んでいます。**全日本民医連対策本部が米の山病院の多目的室に設置され、全国からの大きな規模の支援が、米の山病院を中継点に熊本へ向かう予定になっています。**



給水活動報告

「熊本民医連の事業所はライフラインは大丈夫」と聞いていましたが、その後の地震で状況が一変しました。16日朝6時に「菊陽病院も井戸が濁っている。水道は出ていない。何とかしてほしい」という連絡を受け、ミネラルウォーターを熊本あてに720リットル発注するとともに、3台の車で2.5トンの水を輸送しました。

菊陽病院では栄養科などの職員の方に「今日の夕飯の食事の水も足りない状況でした。助かりました」

「職員も給水に並んでいます3時間待ちでどうにもなりませんでした」と大変喜ばれました。

スプリンクラーが壊れて水浸しだったり、体育館の天井が落ちたり、復旧は大変そうですが、「引き続き力になれば」と思っています。

湯村看護部長 熊本支援レポート

急ぎよ要請があり、看護師2名、事務4名で16日（土）から支援に行きました。くわみず病院がデイケアの患者さん、近隣の住民の避難所になっているので、80人ほど病院内に宿泊しておられました。私はその方々を、夜の見守りやトイレ介助などを前野主任と2交代で行いました。2日目は車中泊してある方のラウンドの予定でしたが、変更となり、菊陽病院に移動して、スプリンクラーが壊れて水浸しになっている建物の各部屋の排水、清掃をしたり、エレベーターが止まっているので、リレーで患者さんの食事を運んだりしました。患者さんたちは、地震のひどさで心的外傷（PTSD）になられている方も多いようでした。伝え聞くところでは出産間近な妊婦さんが入院できないといった事態や車中泊ラウンドで、子供のインフルエンザの発生も報告されていました。

私たちは短期の支援ですが、現地の人たちは長期にわたる取り組みになるし、自分たち自身も被災されている方も多く、今後、一定長期の物心両面での支援が必要となってきます。一緒に頑張りましょう。

4月18日出発者

